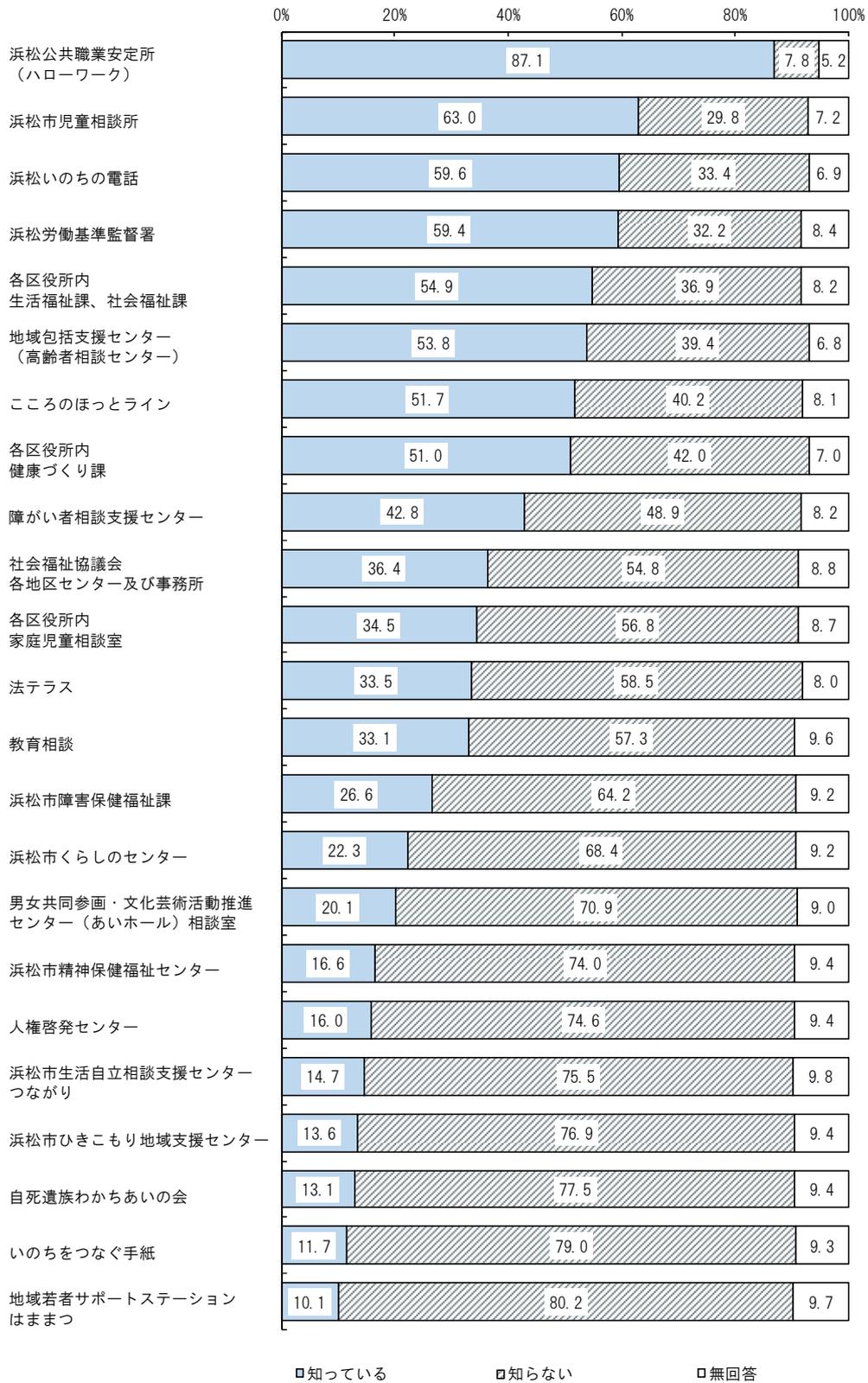




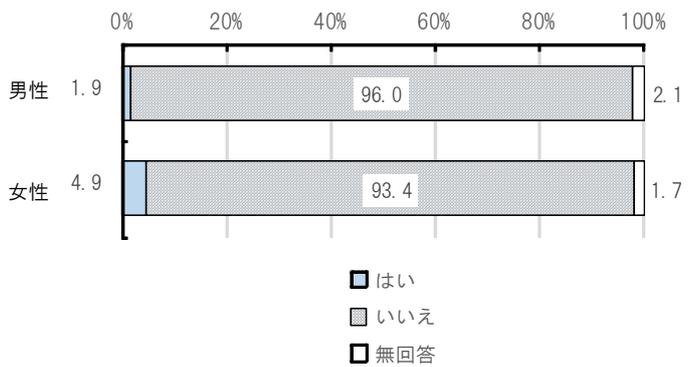
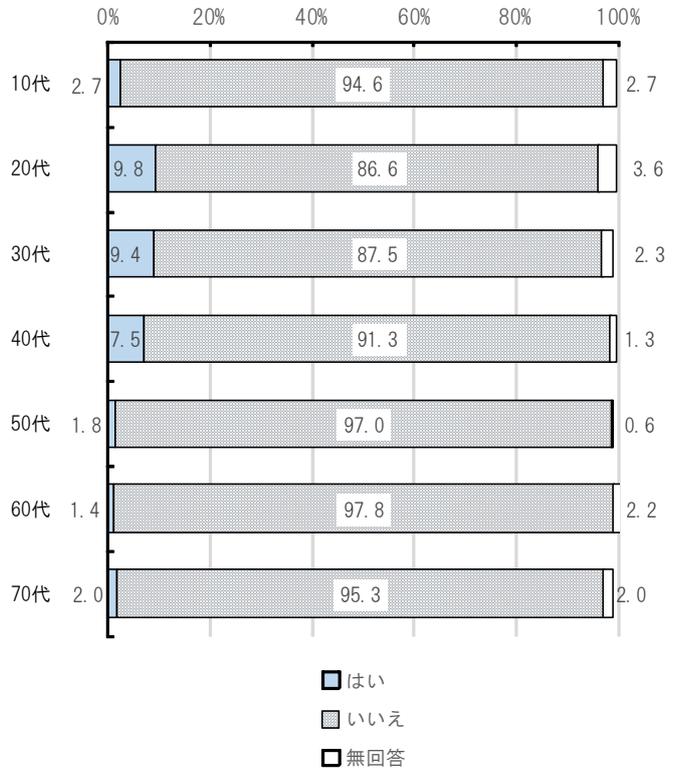
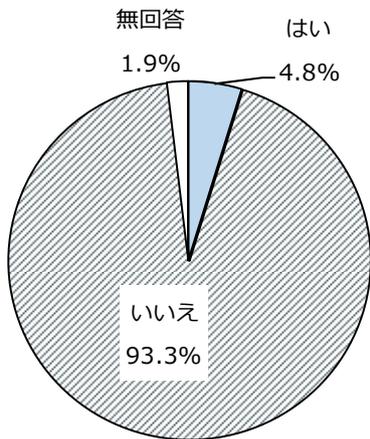
問 あなたは、次の相談機関等を知っていますか。



知っている人が多い相談機関は、「浜松公共職業安定所 (ハローワーク)」が 87.1%と最も多く、次いで「浜松市児童相談所」が 63.0%、「浜松いのちの電話」が 59.6%などとなっています。

自殺について

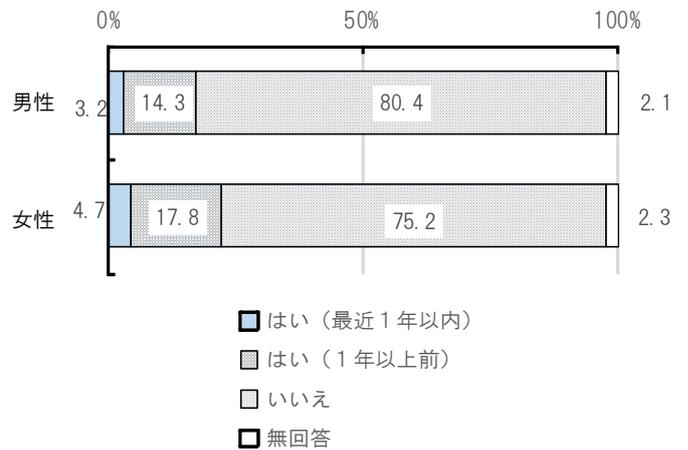
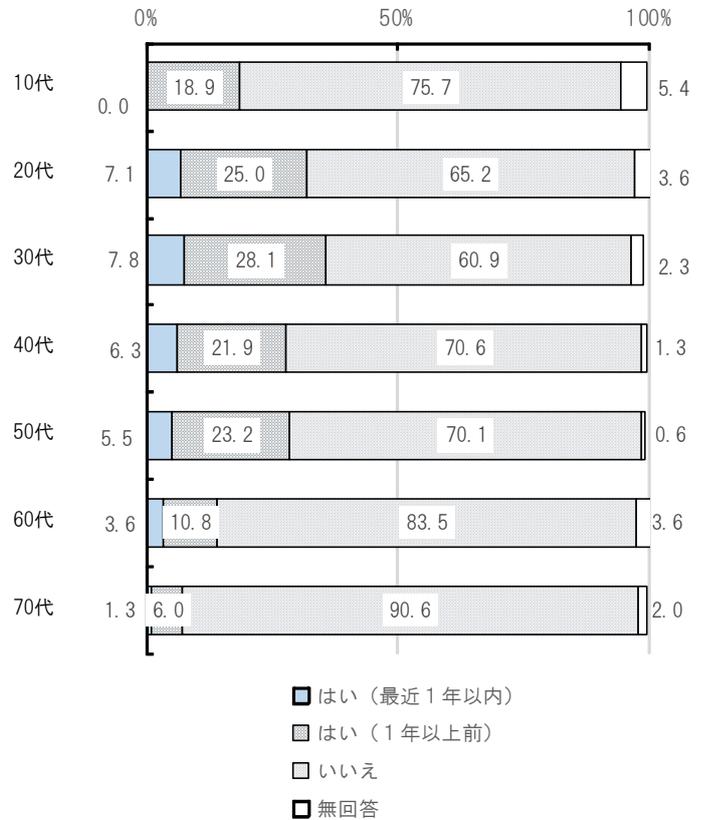
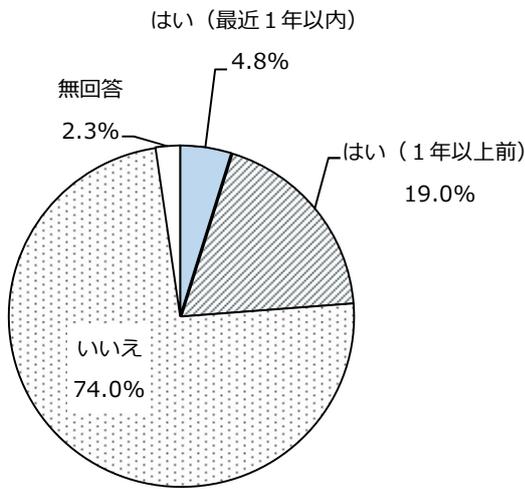
問 あなたは、今までに自分自身を傷つける目的で、刃物や薬物などを使用したことがありますか。



「はい」が4.8%、「いいえ」が93.3%となっています。年代別で比較すると、20代、30代において「はい」が1割近くになっています。性別で比較すると、大きな差異はみられません。

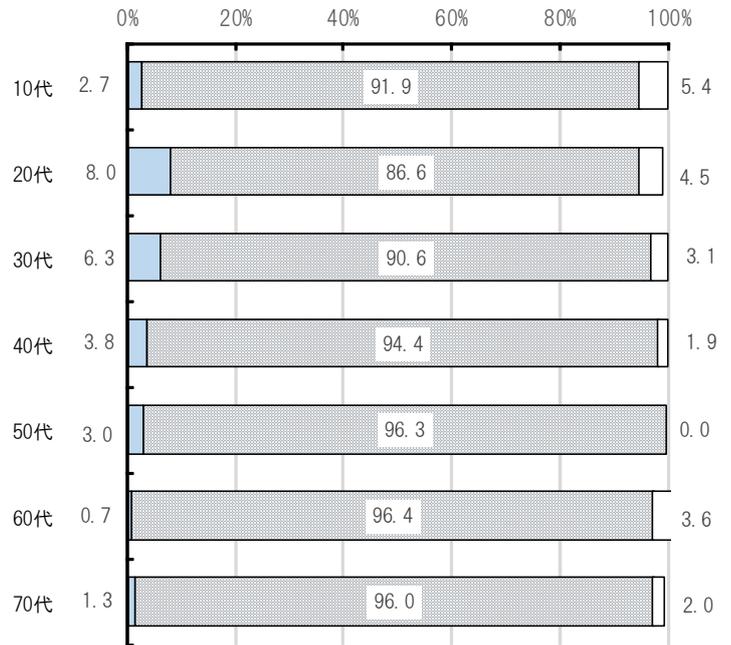
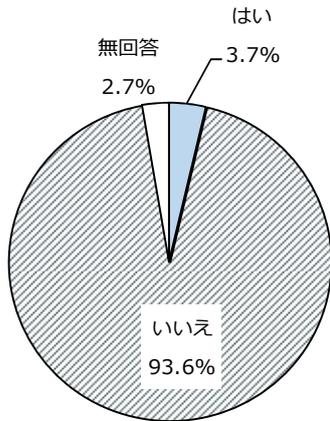


問 あなたは、今までの人生の中で、自殺をしたいと考えたことがありますか。

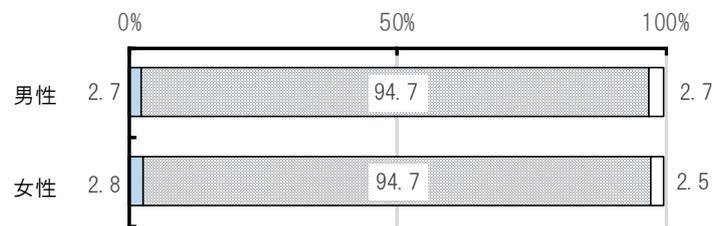


「はい」が23.8%、「いいえ」が74.0%となっています。年代別で比較すると、20代、30代において「はい」が3割を超えて多くなっています。最近1年以内では、30代が7.8%、20代が7.1%などとなっています。性別で比較すると、大きな差異はみられません。

問 あなたは、今まで実際に自殺を試みたことがありますか。



はい
 いいえ
 無回答



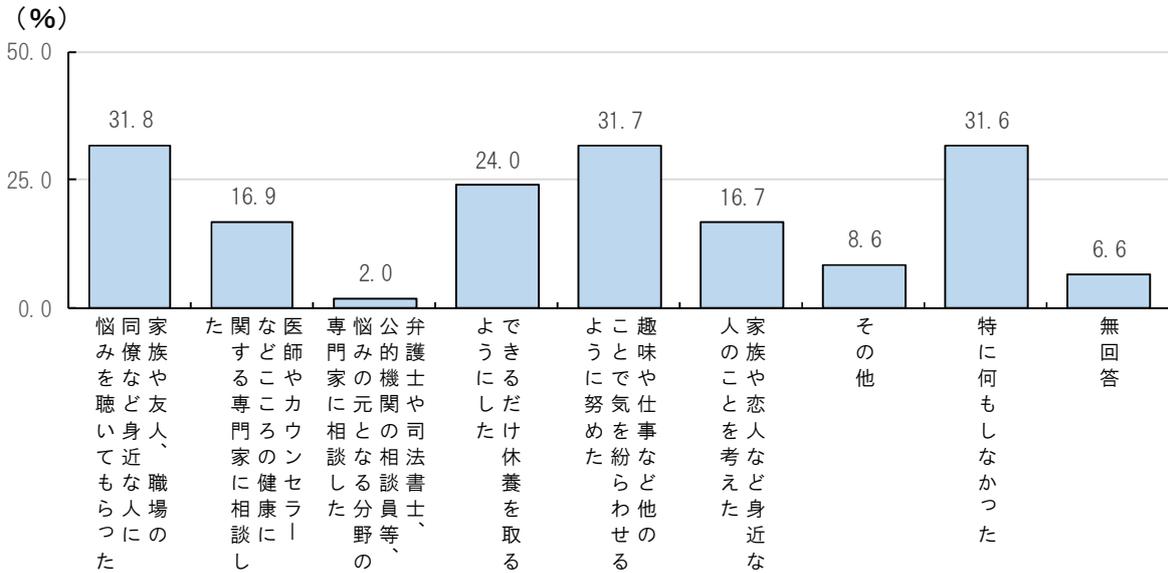
はい
 いいえ
 無回答

「はい」が3.7%、「いいえ」が93.6%となっています。年代別で比較すると、20代が8.0%、30代が6.3%などとなっています。性別で比較すると、大きな差異はみられません。



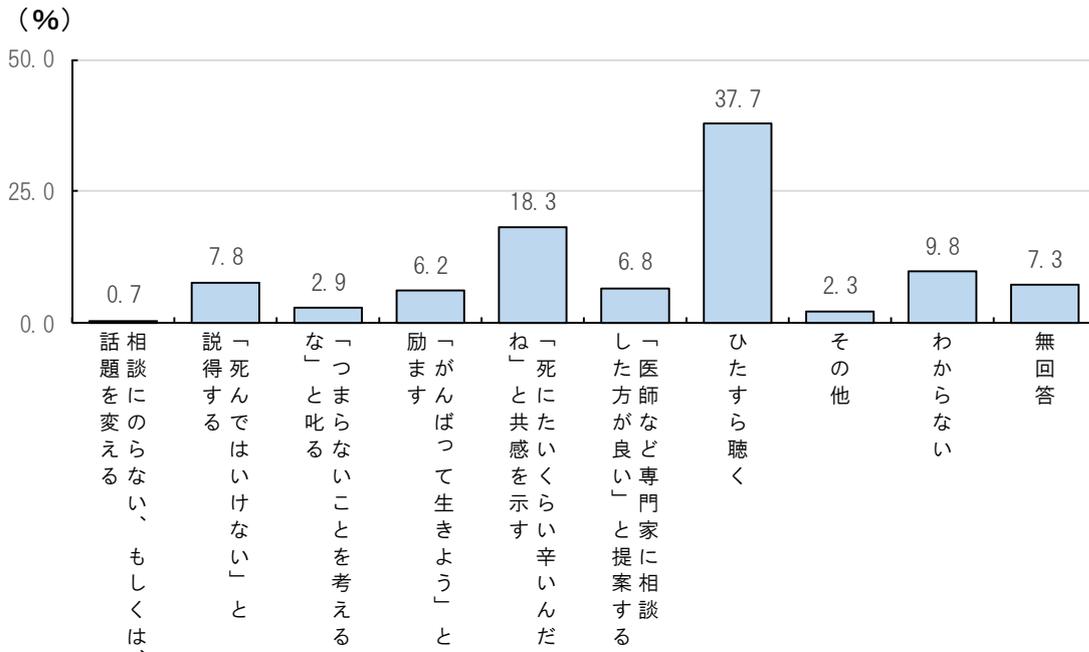
今までに自分自身を傷つけたことがある人、自殺をしたいと考えたことがある人、実際に自殺を試みたことがある人にお聞きします。

問 そのような経験について、どのようにして対処してきましたか。（複数回答可能）



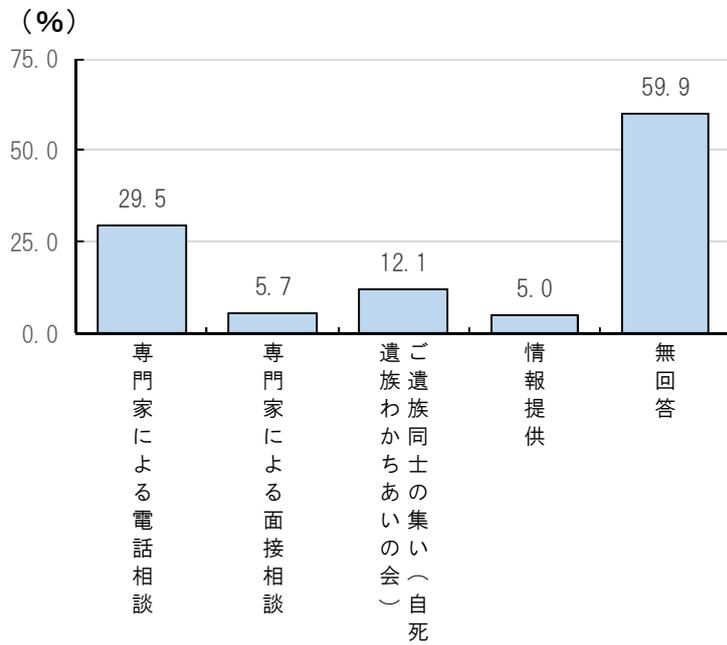
「身近な人に悩みを聞いてもらった」が31.8%と最も多く、次いで「他のことで気を紛らわせるように努めた」が31.7%、「特に何もしなかった」が31.6%などとなっています。

問 あなたが身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、まずはどのように対応しますか。



「ひたすら聴く」が37.7%と最も多く、次いで「死にたいくらい辛いんだねと共感を示す」が18.3%、「わからない」が9.8%、「死んではいけないと説得する」が7.8%などとなっています。

問 あなたは、本市で行われているご家族を自殺で亡くされたご遺族への支援で、知っているものはありますか。（複数回答可能）

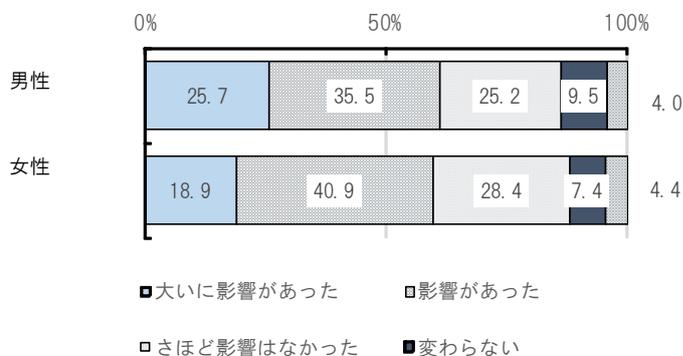
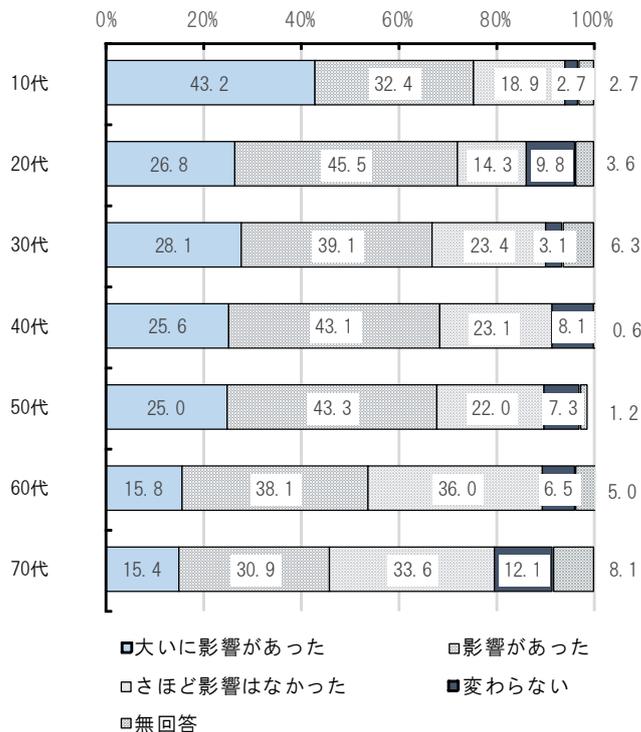
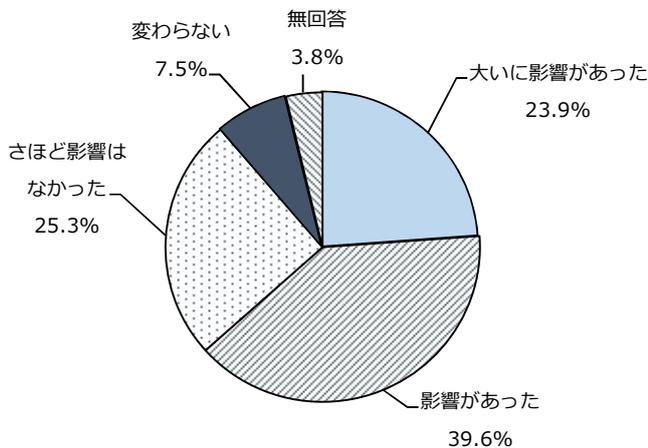


「専門家による電話相談」が29.5%と最も多く、次いで「ご遺族同士の集い」が12.1%、「専門家による面接相談」が5.7%などとなっています。



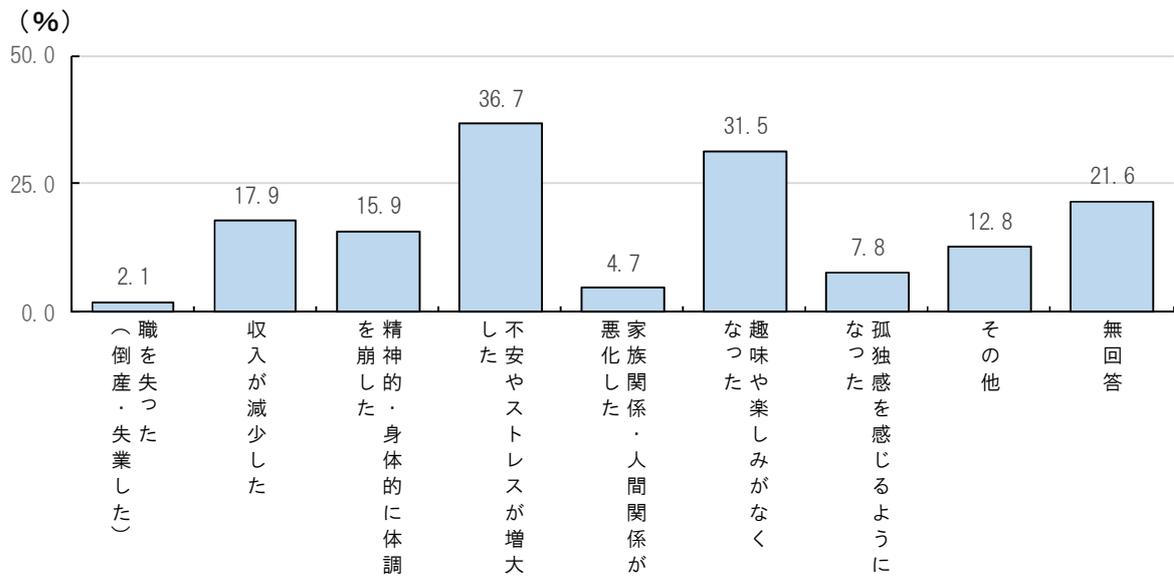
新型コロナウイルスの影響について

問 あなたの生活において、新型コロナウイルスの影響はありましたか。



「影響があった」が39.6%と最も多く、次いで「さほど影響はなかった」が25.3%、「大いに影響があった」が23.9%などとなっています。年代別で比較すると、10代、20代において、「大いに影響があった」と「影響があった」を合わせると7割を超えて多くなっています。性別で比較すると大きな差異はみられません。

問 具体的にはどういった影響がありましたか。(複数回答可能)



「不安やストレスが増大した」が 36.7%で最も多く、次いで「趣味や楽しみがなくなつた」が 31.5%、「収入が減少した」が 17.9%、「精神的・身体的に体調を崩した」が 15.9%などとなっています。

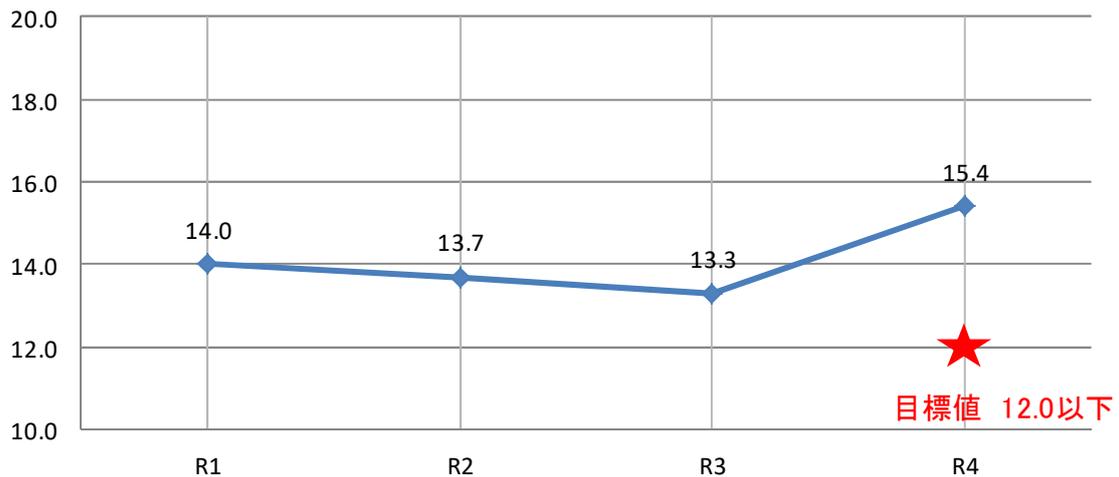


3 第三次計画の目標との比較

(1) 人口動態統計による本市の自殺死亡率の比較

項目	第三次計画 目標値	推移				
	R4年 (2022)	R1年 (2019)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	4年平均
自殺者数	92人相当	111人	105人	105人	121人	111人
自殺死亡率	12.0以下	14.0	13.7	13.3	15.4	14.1

【本市の自殺死亡率の推移】



本市の第三次計画目標値は、令和4（2022）年の自殺死亡率12.0以下（自殺死亡者数92人相当）でした。

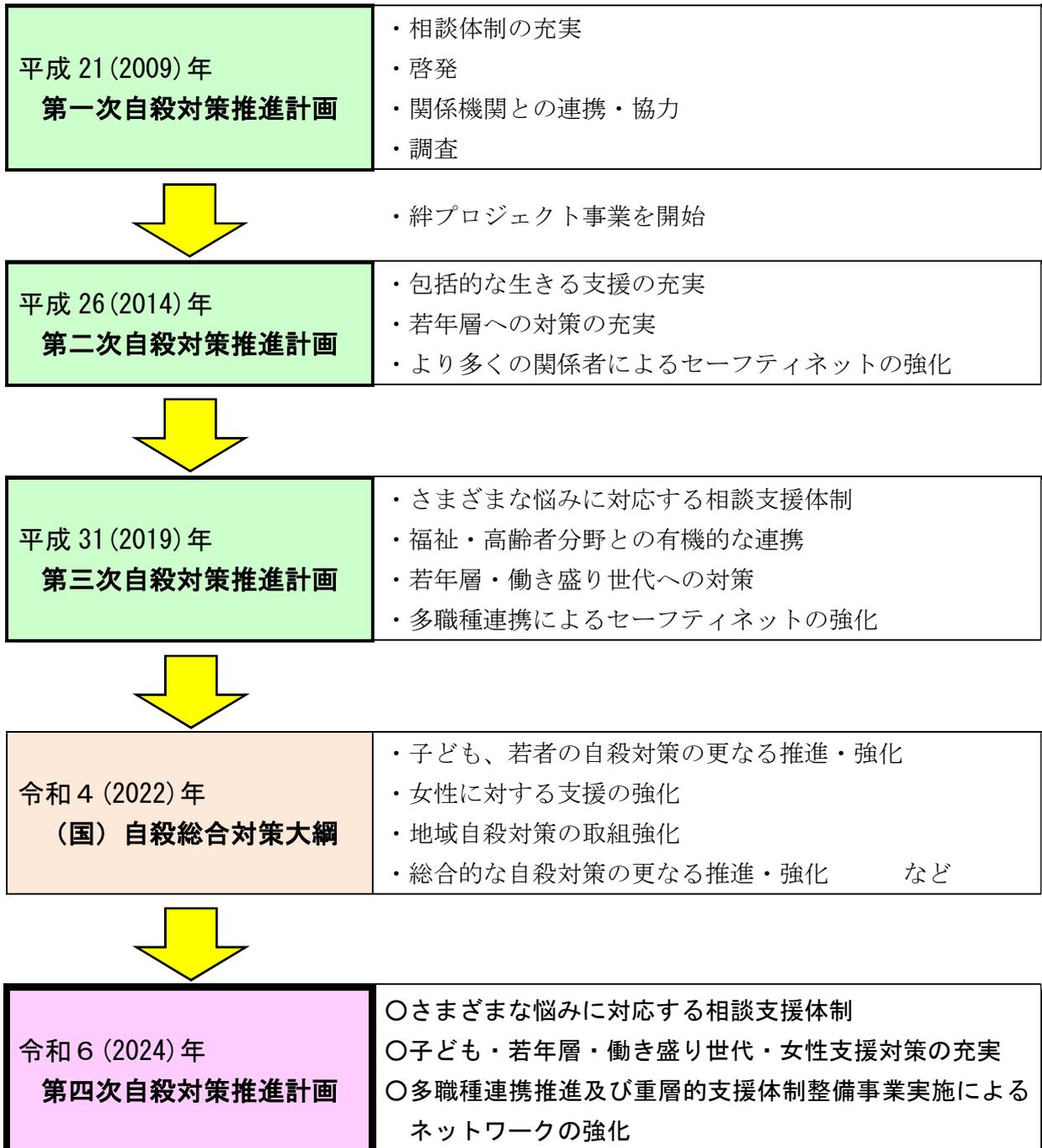
推移では、令和1（2019）年の14.0から、令和2（2020）年～令和3（2021）年と減少傾向にありましたが、令和4（2022）年の自殺死亡率は15.4（自殺死亡者数121人）と増加しました。令和4（2022）年目標値の12.0以下を大きく上回っています。

自殺者数は、経済状況などの社会情勢の変化に大きく影響を受けることから、今後もより一層の対策を進める必要があります。

第3章 計画の基本方針

1 計画の基本的な考え方

第四次計画では、第三次計画の事業を踏まえつつ、さまざまな悩みに対応する相談支援体制、子ども・若年層・働き盛り世代・女性支援対策の充実、多職種連携推進及び重層的支援体制整備事業実施によるネットワークの強化を図り、本市の自殺対策を総合的に推進していきます。





2 基本理念

孤立を防ぐ

～ひとりじゃないよ、大丈夫。～

令和5(2023)年6～7月に実施した自殺対策に関するアンケート調査によると、回答者のおよそ35人に1人が「最近1年以内に自殺を考えたことがある」と回答しています。また、1つの自殺には10倍の未遂があるといわれており、更に自殺や自殺未遂による家族や友人等周辺の心理的影響を考慮すると、自殺は一部の人の問題ではなく、きわめて大きな社会問題の一つとなっています。

自殺に至る心理として、さまざまな悩みや負担、喪失感が重なることで、絶望し、人生に悲観し、誰かに助けを求めることを考えられなくなる等、心理的視野狭窄に陥っているといわれています。自殺に追い込まれるということは、状況によっては、誰にでも起こりうることなのです。

本市では、「孤立を防ぐ～ひとりじゃないよ、大丈夫。～」を基本理念と定め、身近な人同士の支えあいと地域のセーフティネットを両輪とした孤立を防ぐための施策を展開し、一人ひとりが、かけがえのない個人として尊重される社会の実現を目指します。

3 施策の体系

【 計 画 目 標 】
 浜松市の自殺者が一人でも少なくなることを目指します。
 【 数 値 目 標 】
 令和9(2027)年自殺死亡率 12.0 以下

◆基本理念◆

孤立を防ぐ
ひとりじゃないよ
大丈夫

◆ 重点施策 ◆

- 1
安心して暮らすための
包括的支援の充実
- 2
子ども・若年層・働き
盛り世代・女性支援
対策の充実
- 3
多職種連携推進及
び重層的支援体制
整備事業実施による
ネットワークの強化

◆ 分野別施策 ◆

- I 相談、支援体制の充実**
- (1) きめ細かな相談体制づくり
 - (2) 自殺のリスクの高い人への支援
 - (3) 遺された人への支援
 - (4) こころの緊急支援活動
 - (5) 妊産婦等女性への支援
 - (6) 適切な精神保健福祉医療サービスの提供
- II 教育、啓発の促進**
- (1) 学校における心の健康づくり
 - (2) 地域における心の健康づくり
 - (3) 職場におけるメンタルヘルス対策
 - (4) 自殺の実態把握
- III 人材養成、環境整備等の促進**
- (1) ゲートキーパー養成
 - (2) 民間団体等への支援
 - (3) 人材の養成・資質向上への支援
 - (4) こころの健康支援の環境整備及びこころの健康づくりの促進
- IV 多職種連携の推進及び重層的支援体制整備事業の実施**
- (1) 支援者同士のネットワークの構築
 - (2) 重層的支援体制整備事業の実施
 - (3) 地域の実践的な取組支援の強化
 - (4) 気づきと見守りの促進